

# 横浜市インフルエンザ流行情報 4号

横浜市健康福祉局健康安全課  
衛生研究所

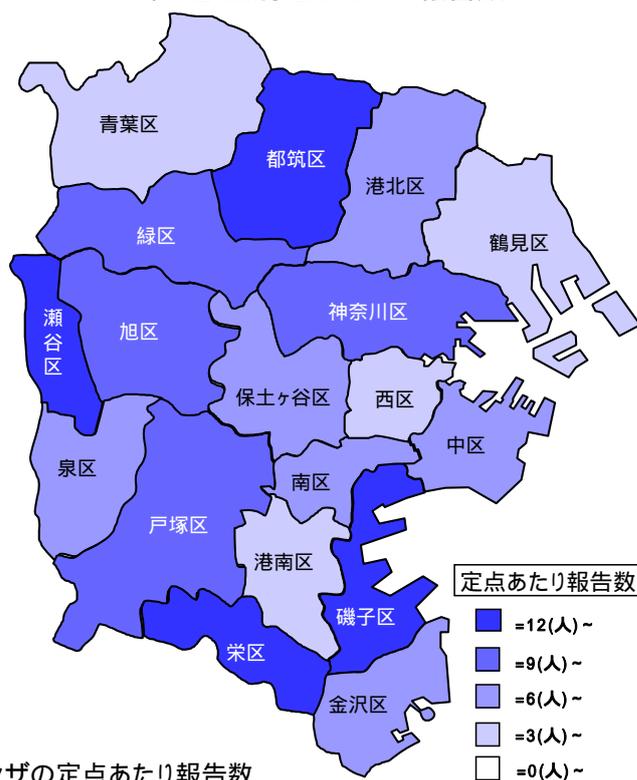
- 第 2 週に神奈川県全域が注意報レベルの流行となりました。
- 今シーズンに入り、病原体定点医療機関から 36 株分離され、その内訳は、AH1 亜型(ソ連型) 18 株、AH3 亜型(香港型) 9 株、B 型 9 株でした。そのうち AH1 亜型(ソ連型) 15 株と AH3 亜型(香港型) 4 株にオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性遺伝子の検査を行いました。
- AH1 亜型(ソ連型) 15 株すべてからオセルタミビル耐性遺伝子が検出されましたが、ザナミビル(商品名:リレンザ)に対する耐性は確認されていません。
- AH3 亜型(香港型)にオセルタミビル耐性遺伝子は検出されませんでした。
- AH1 亜型(ソ連型)、AH3 亜型(香港型)は今シーズンのワクチンと類似株で、ワクチンの効果が期待されます。

## 1 今シーズンの感染症発生動向調査におけるインフルエンザの患者発生状況

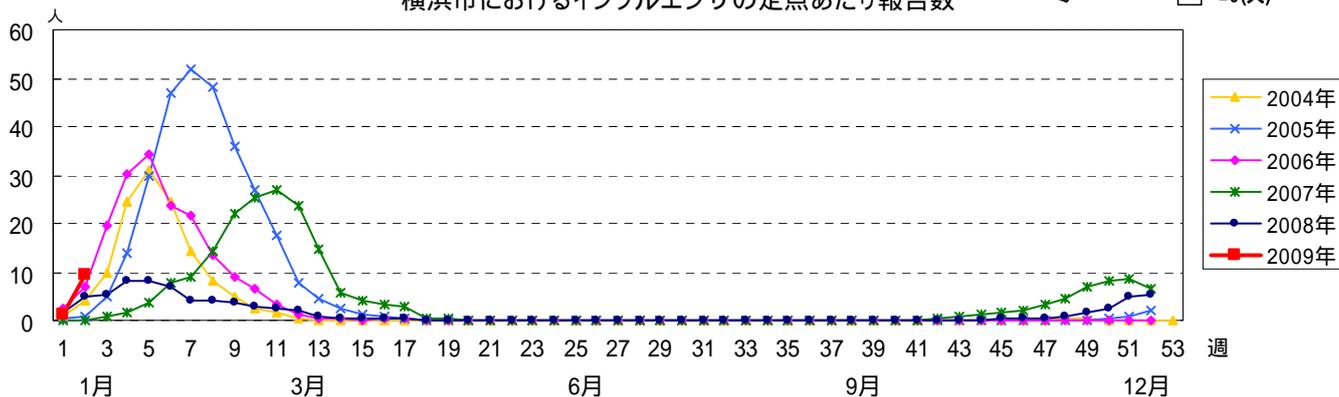
### (1) 患者定点医療機関からの患者報告状況

横浜市では、過去 6 年間で最も早かった昨シーズンに次いで早く、第 49 週に流行の目やすとなる「1.0」を超えました。2009 年第 2 週の定点あたり報告数は 9.46 と増加しており、すべての区で流行期に入っています。区別では、磯子(22.25)、都筑(19.57)、瀬谷(16.29)、栄(12.40)、緑(10.00)の 5 区で注意報レベルの「10」を超えています。早期のワクチン接種が望まれます。

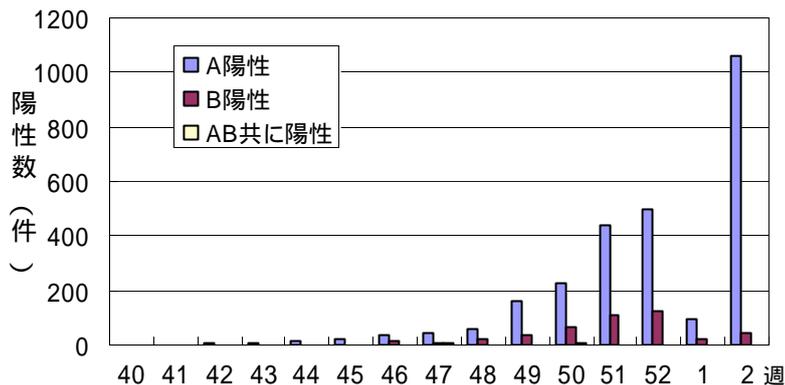
第2週 区別定点あたり報告数



横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数



横浜市内の患者定点医療機関における  
迅速診断用検査キットによる型別の判定



また、横浜市内の患者定点医療機関のご協力で報告いただいた迅速診断用検査キットによる型別の判定(患者発生報告書に検査結果を記載いただいたものについての集計)をグラフに示しました。2009年第2週では、A型1059件、B型41件、AB型共に陽性3件の報告がありました。

全国でも、インフルエンザ報告数は連続して増加し、第49週に流行の目やすとなる「1.0」を超え、2009年第2週の定点あたり報告数は11.97と、さらに増加しており、注意報レベルの「10」を超えました。都道府県別では、すべての都道府県で流行期に入っており、青森県、岩手県、秋田県、新潟県、富山県、石川県、山梨県、岐阜県、三重県、島根県、高知県、熊本県以外の35都道府県で注意報レベルの「10」を超えています。

定点あたり 患者報告数	第50週 (12/8-12/14)	第51週 (12/15-12/21)	第52週 (12/22-12/28)	第1週 (12/29-1/4)	第2週 (1/5-1/11)
全国	2.80	4.69	6.54	5.38	11.97
東京都	2.37	4.00	5.17	2.14	10.02
神奈川県(全県)	2.11	3.88	5.23	2.00	10.81
横浜市	2.48	4.78	5.45	1.24	9.46
川崎市	1.91	2.48	3.44	1.62	9.32
県域(横浜・川崎を除く)	1.83	3.56	5.72	2.88	12.64

## (2) 今シーズンの学校等における集団かぜについて

市内の幼稚園、学校等からの集団かぜ等は、過去4シーズンと比べて、最も早く2008年10月20日に初発の報告があり、2009年1月17日までに学級閉鎖6施設(6学級)がありました。施設の内訳は、幼稚園2校、小学校1校、中学校2校、高等学校1校です。区別では、神奈川(2施設)、鶴見(1施設)、中(1施設)、磯子(1施設)、都筑(1施設)から報告されています。

全国状況については、<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/infreport/report.html> をご覧ください。

### インフルエンザ定点

インフルエンザの流行状況を把握するために、横浜市内では小児科定点88か所を含む145か所(全国約5000か所)の医療機関を「インフルエンザ定点」と指定しています。

## 2 今シーズンの病原体定点等の検体からのインフルエンザウイルス分離・検出状況について

2008 年第 47 週以降の病原体定点の検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて 55 件あり、その内訳は AH1 亜型(ソ連型)25 件(45%)、AH3 亜型(香港型)21 件(38%)、B 型 9 件(16%)となっています。どの亜型のウイルスも継続的に分離されていますので、今後の動向に注意する必要があります。

病原体定点の検体からの AH1 亜型(ソ連型)分離株は、遺伝子解析を行った 15 件すべてにオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性を示唆する遺伝子変異が認められましたが、ザナミビル(商品名:リレンザ)耐性を示唆する遺伝子変異は認められませんでした。また、AH3 亜型(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った 4 件すべてにオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められませんでした。

集団かぜの検体に関しては AH1 亜型(ソ連型)が PCR で 3 株検出されました。これらからは、オセルタミビル耐性遺伝子は検出されませんでした。また、B 型が 4 株分離されました。

検査数はまだ少ないのですが、抗原分析を行った結果、AH1 亜型(ソ連型)10 株、AH3 亜型(香港型)4 株はすべて今シーズンのワクチンと類似株で、ワクチンの効果が期待されます。

### (1) 今シーズンの病原体定点の検体からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

月集計および週数	定点数	検体数	インフルエンザ検出状況					
			A 型				B 型	
			H1(ソ連型)		H3(香港型)		分離	PCR*
			分離	PCR*	分離	PCR*		
2008 年第 47 週	3	9	-	-	-	1	-	-
第 48 週	3	9	-	-	-	1	-	-
第 49 週	4	10	-	-	-	-	-	-
第 50 週	6	15	5	-	3**	-	3**	-
第 51 週	6	17	-	-	2	8	-	-
第 52 週	6	15	5	-	1**	-	4**	-
2009 年第 1 週	5	17	6	2	3	-	-	-
第 2 週	5	17	2	5	-	2	2	-

\*: ウイルス分離はされていませんが、遺伝子検査で検出されたものを計上します。

\*\* : うち 1 件は、1 人の検体から AH3 亜型と B 型の両方が分離されました。

### (2) 今シーズンの学校等における集団かぜからのウイルス分離・検出状況

検体採取週	区数	施設数	検体数	インフルエンザウイルス検出数					
				分離			遺伝子		
				AH1	AH3	B	AH1	AH3	B
2008 年第 50 週(12/8~12/14)	1	1 幼稚園	3				3		
2008 年第 51 週(12/15~12/21)	1	1 中学校	5			4			

国立感染症研究所の病原微生物検出情報によれば、2009 年 1 月 19 日現在、全国の地方衛生研究所のインフルエンザウイルス分離・検出状況は、A(H1)型 296 例、A(H3)型 324 例、B 型 128 例です。

詳しくは、<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data1j.pdf> をご覧ください。

最新の情報については、<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/> をご覧ください。

横浜市健康福祉局 健康安全課 (TEL:671-2463)  
 横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (TEL:754-9816)  
 検査研究課ウイルス担当 (TEL:754-9804)